

保育所と家族の連携 事例 1

*お泊り保育の出欠の確認が、保育士と母親の関係をぎくしゃくさせたよう

→保育士からすれば当たり前のこと

母親からすれば何か自分の欠点を指摘されたと捉えたのかも？

*その後保育士は、母親の気持ちを受け入れながらも子どもが楽しみに

していることを伝え、事情も考慮した対応

→Aちゃんは楽しみにしながらみんなで準備したお泊り会に参加

*母親からねぎらいの言葉が

→二転三転する母親に丁寧に対応した保育士

→お泊り会が楽しかったことが子どもから伝わった



対応 1

子どもにテレビ、ビデオを夜遅くまで見せていて、夜遅くまで起きているから朝起きられないのだから、もっと生活リズムをきちんとしてもらうことが子どもの成長には大事だ



- * 保護者には生活リズムをきちんとしてもらうようにアドバイスしよう
- * 保護者にテレビやビデオが子どもに与える影響について話をしよう
- * 生活リズムが崩れていることで子どもが登園後にほかの子どもたちと元気に遊べないことを話して、もっと夜早く寝られるようにしてもらおう



対応 1 の反応

- * 保育士に言われたことはもっともなので、子どもを夜早く寝かせて、朝早く起きるようになって問題が解決した
- * 保育士に言われたことは了解したが、やはりなかなか状態が改善されなかった
- * 保育士に言われたときに、保護者は「わかってはいるんですけど…」とすぐに改善しようという態度ではなかった



対応2

- * 夜遅くまでテレビやビデオを見てしまうのはどうだろうか
- * なにか理由があるのではないか
- * 保護者の生活はどうだろうか
- * 夫婦関係、仕事、経済的にはどうだろうか
- * 子どもとの関係はどうか
- * 健康状態はどうか
- * 近隣との関係はどうか
- * どんな所に住んでいるのだろうか など

さまざまな要因を頭に置きながら話を聞いていく



話を聞いてわかった事情

母親に話を聞いてみると、父親が多忙でいつも帰宅が遅く、母親は残業の仕事を家に持ち帰っていたことがわかった。母親は保育所の迎えをしなくてはならないので残業ができない。残業をしないことで仕事の評価が下がってリストラされることを心配して、家に仕事を持ち帰っていた。

子どもの世話もそこそこに毎日夜遅くまで仕事をしていたという。そんな状況のなかで、子どもがテレビやビデオを遅くまで見ているという生活になってしまった。



追加の情報に対する保育士の反応

- * そういう事情だったのか、それは大変だろうと
まず保護者の気持ちに思いを巡らす
- * 「それは大変ですね」という言葉が、まず最初に出る
- * しかし、子どものためには何とかしてもらいたいとも思う
- * 保育所でもできることをまず援助していこうと考えて
具体的に提案していこう
- * 保護者ととともに子どもを育てていこうという気持ちを伝えよう



追加の情報に対する保育士の反応

- * 保護者は、子どもにとって今の生活がよいとは決して思っていないので、何とかしようと思うかもしれない
- * 保育士に「それは大変ですね」と言われて自分の気持ちを理解しえもらったことで救われたように感じるのではないか
- * 保育士が自分を非難するのではなく、理解してくれていることを感じてアドバイスを素直に受けようという気持ちになるのではないか
- * 今の生活を少しでも改めようとして、保育士に自分の気持ちを伝えて、相談にのってもらおうと思うかもしれない
- * 保護者は決して今の生活がよいと思っているわけではないので、「そうですね。もう少し子どもを早く寝かせるようにします。子どもを寝かせてから仕事をするようにしてみます」など、自分から前向きな対応に努力しようとする方向にむかうかもしれない

事例2からの考察

- * 保育士からこうしたらなどと指示をしない。「どしたらよいでしょうね」と一緒に考えていこうという気持ちで保護者の決定を尊重する
- * 保育士は、保護者だけに対応を任せるのではなく、園における配慮を保護者に示す。「園でもようすをみながら、お子さんがゆっくり落ち着けるように配慮します」などと伝える
登園してすぐに友達と遊べないことがいけないことではなく、その場合には、子どもが自分のペースで過ごせるように配慮していくことも大事な支援
- * 保育所での子どもの様子を伝えながら、家庭の様子や保護者の気持ちを受け止めて少しでも子どもが育っていけるように、園においても子どもに対応していく
- * すぐに変化がないからといって否定的にならない
- * 目の前にいる”子どもが育つ”ために、現時点で園で子どもにできることはしていく